

大工道具の 種類と使い方②

日本独特のものさしで、これひとつで何通りもの使い方ができます。

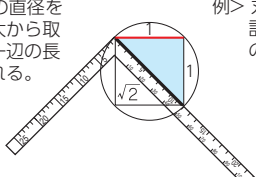
■表目盛り

表目には、通常目盛り（mm単位）が刻まれている。

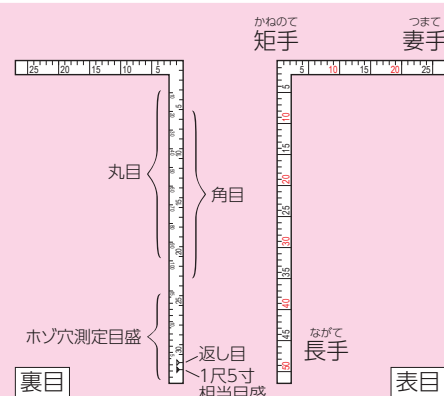
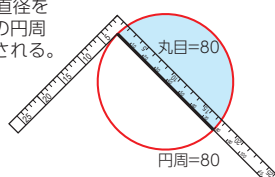
■裏目盛り

裏目には角目（実際の寸法の1.41（ $\sqrt{2}$ ）倍の目盛り）と、丸目（通常目盛りの3.14（ π ）倍の円の目盛り）が刻まれている。

例> 角目で丸太の直径を計ると、丸太から取れる角材の一边の長さが表示される。



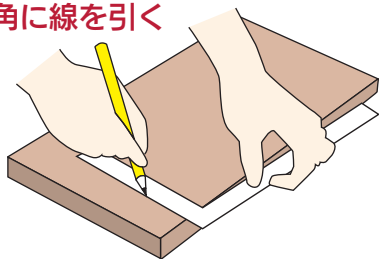
例> 丸目で丸太の直径を計ると、丸太の円周の長さが表示される。



基本的な使い方

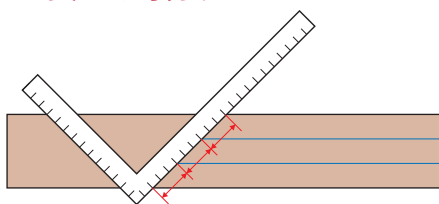
※ここに掲載しているさしがねの使い方は一例です。

●直角に線を引く



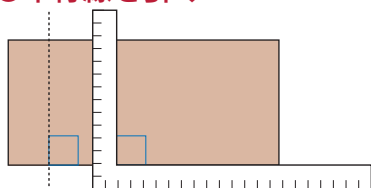
長手の内側を基準面に密着させて、左手でしっかりさしがね全体を押さえ、基準面と直角に線を引きます。

●長さを等分する



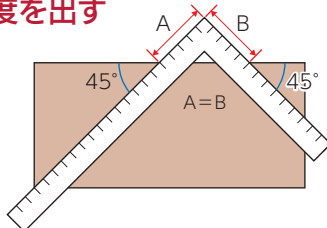
図のように3等分する場合には、さしがねをななめに置いて、90mmと120mmとか、3等分しやすい長さになるようにします。そこで、しるしをつけておき、右側から垂直に、そのしるしを通るような直線を引きます。

●平行線を引く

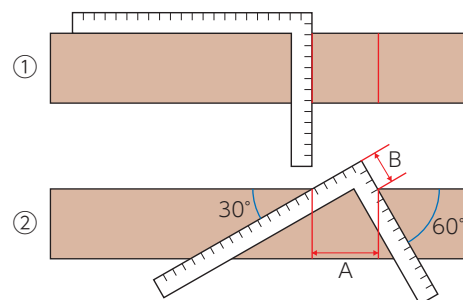


水平な一边に長手の内側をあてて、さしがねをずらし平行線を引きます。

●角度を出す



材料が長方形などに整っている場合、図のようにさしがねをななめにおいて、 $A=B$ の寸法が等しくなるようにすると、45度の角度を出すことができます。

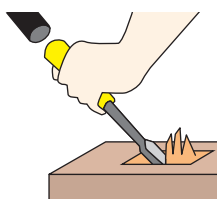


30度や60度の角度を出したい時は、①まず基準面からAという間隔で2本の平行線を引きます。②次に、その平行線の間隔Aに対して、Bの長さが半分になるようにさしがねを置くと左右にそれぞれ30度、60度ができあがります。

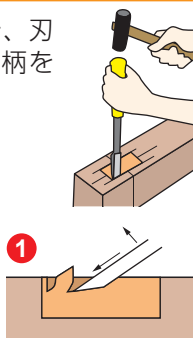
木材に溝や穴を掘ったり、削ったりする道具です。

ホゾ穴の掘り方

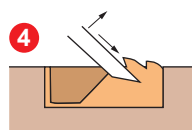
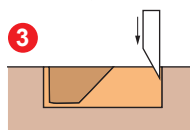
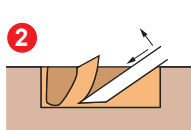
スミ付けをした周囲2mmの内側を、刃裏を手前にして直角にノミを立て柄をたたき、掘り線を入れる。



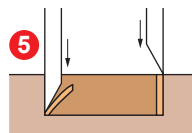
ノミを約60度傾けてできた切り込みに向かってたたき、掘り起こす。



スミ付けより広いキズを残さないように、スミ付けの3～1mm手前でこの動作を繰り返す。



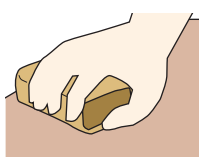
最後に改めてスミ付きいっぱいまで掘りくずし、穴を開ける。



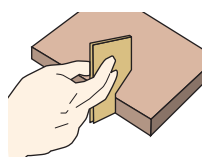
木材の表面をきれいにするものです。

磨き方

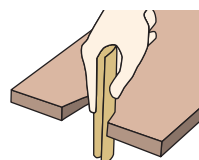
平面の場合は木片に巻きつけて磨きます。



小さい木材の場合は木材の方を動かします。くい込んでいる面を磨く場合はサンドペーパーを折って使います。

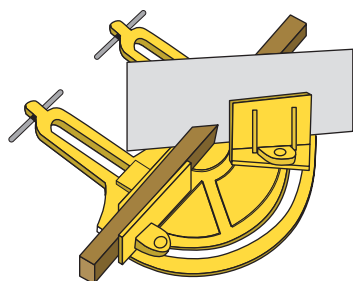


曲面を磨く場合はサンドペーパーを丸めるか、丸棒に巻きつけて磨きます。

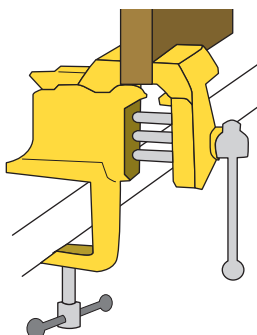


#60	目がかなり荒いので、角材等の切断面をならすときに、最初に使う。
#80	かんな仕上げをしていない木材の面を仕上げるときに、この荒さのものから始める。
#180	かんな仕上げをしてある木材の面を磨くときに使う。
#240	白木などをサンドペーパーのみで仕上げるときに最後にこれで磨く。
#320	木工ではあまり使わないが、特に念入りに仕上げたい場合に使う。

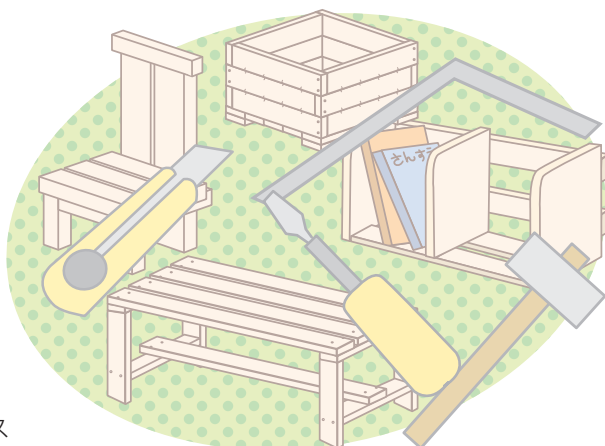
接着をより強固にするための補助道具です。



自在クランプ



ベンチバイス



禁複製



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ **会員募集中!**



**アヤカ
ポイントも
貯まる!**



アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

